

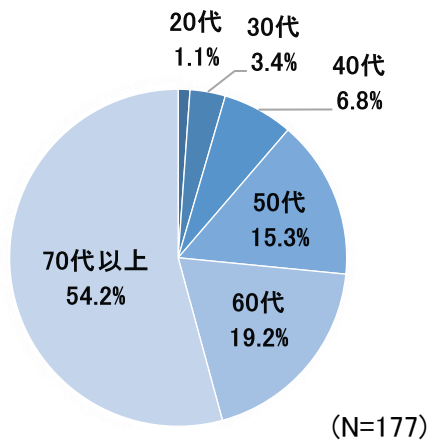
もりおか暮らしのアンケート集計結果

年度	令和7年度	令和6年度
対象	東日本大震災以降、盛岡市に転居し、現在も市内に居住している世帯の意見を代表する方、又は世帯主(主たる生計維持者)の方 (令和7年10月1日時点)	東日本大震災以降、盛岡市に転居し、現在も市内に居住している世帯の意見を代表する方、又は世帯主(主たる生計維持者)の方 (令和6年12月1日時点)
対象数	439世帯	446世帯
回答数	199世帯	157世帯
回答率	45.33%	35.20%
実施期間	令和7年10月14日～令和7年11月7日	令和6年12月13日～令和7年1月8日
調査方法	郵送、インターネット回答、原則無記名	郵送、インターネット回答、原則無記名

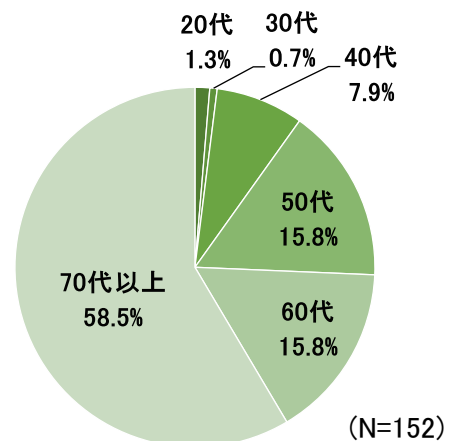
回答者の属性

令和7年度

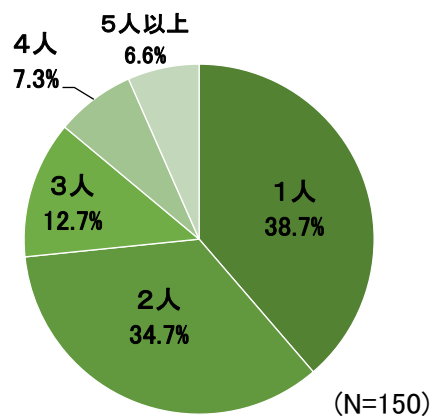
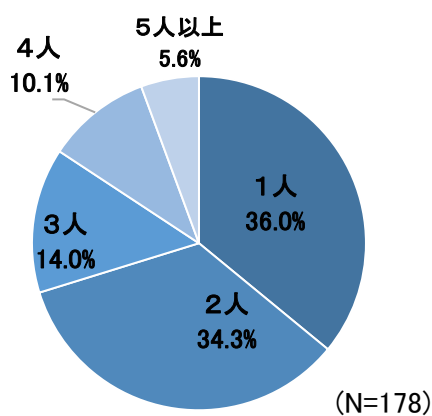
【年齢】



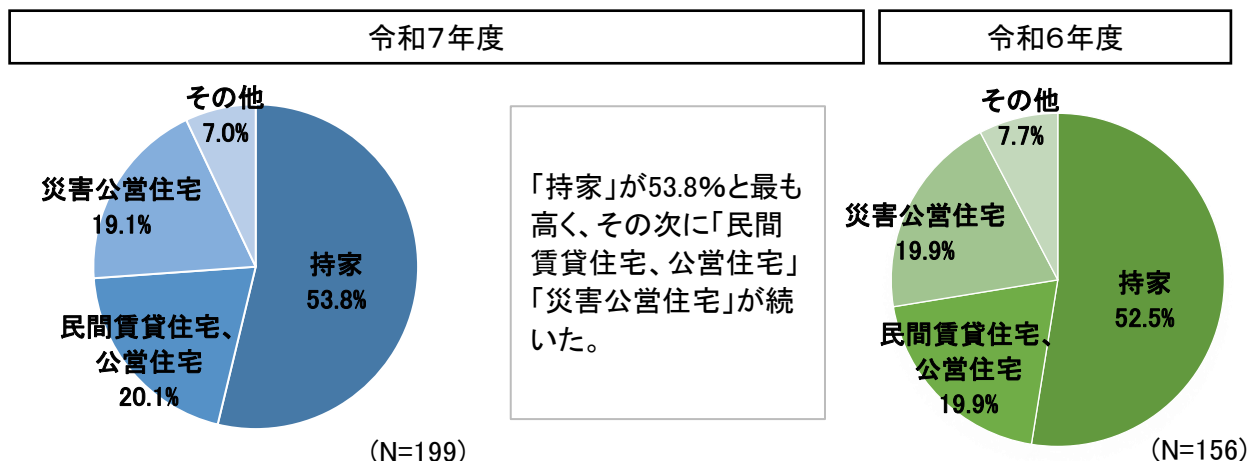
令和6年度



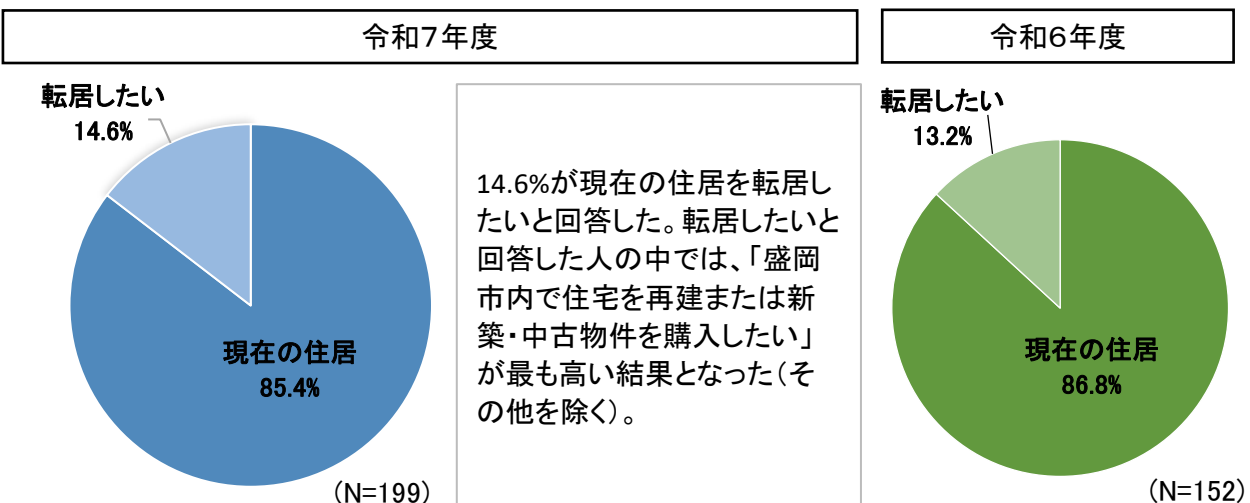
【世帯人数】



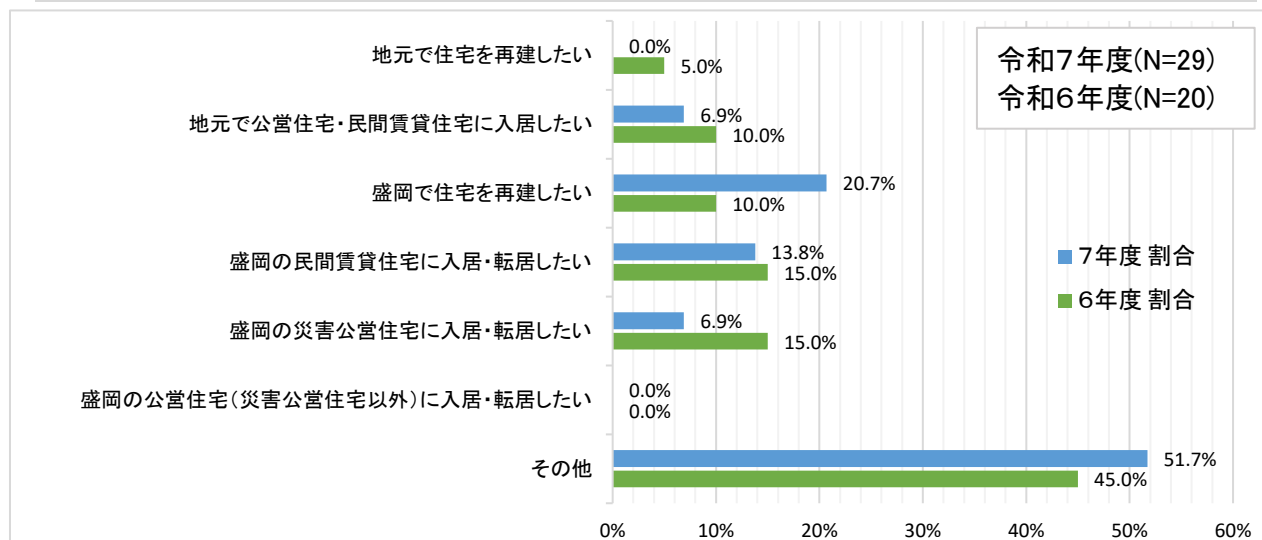
◆問1 あなたは、現在どのような住居にお住まいですか。



◆問2 これからの住まいをどのようにしたいと考えていますか。



【「転居したい」との回答の内訳】

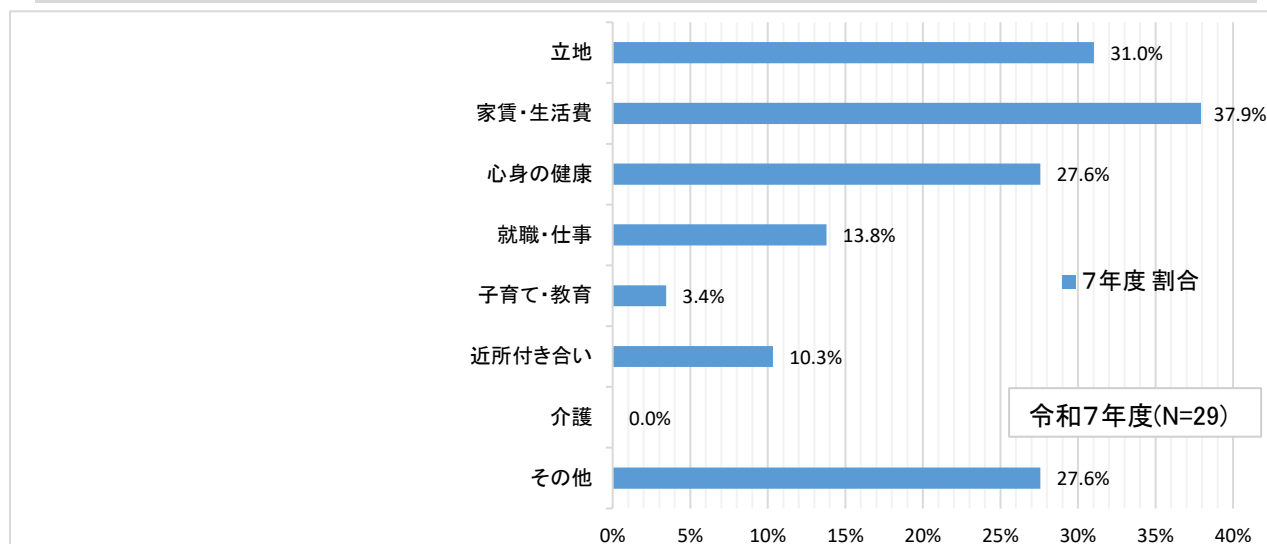


【その他欄記載内容】※趣旨を損なわない範囲で修正を加えている部分があります。

- ・家族が震災前に住んでいた市町村近郊に住宅を建てたため、そこで一緒に家族と暮らしたい。
- ・子供たちが県外に住む場合、持ち家を売却し、公営住宅に入居したい。
- ・東京に住む妹の家で暮らしたい。
- ・現状は現在の住居に住み続けたいが、将来的には盛岡市内の災害公営住宅または公営住宅(災害公営住宅以外)への入居または転居を希望する。
- ・状況次第では県外での居住も検討している。

〔問2で「現在の住居に住みつづけたい」と回答した方以外にお伺いします。〕

問2-1 転居等を考えている理由は何ですか。(複数回答)【令和7年度新規項目】



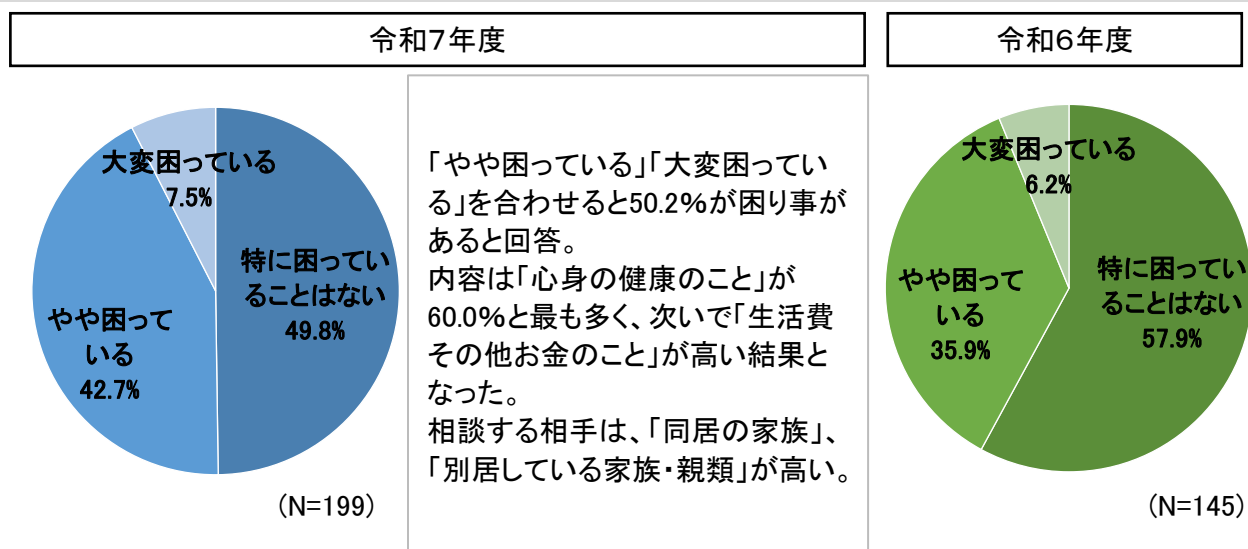
【その他欄記載内容】※趣旨を損なわない範囲で修正を加えている部分があります。

・持ち家に一人で住んでいるが、妻も子供たちもそれぞれ住宅を所有している。

自分が他界した後は住む人がいないため、処分を検討している。

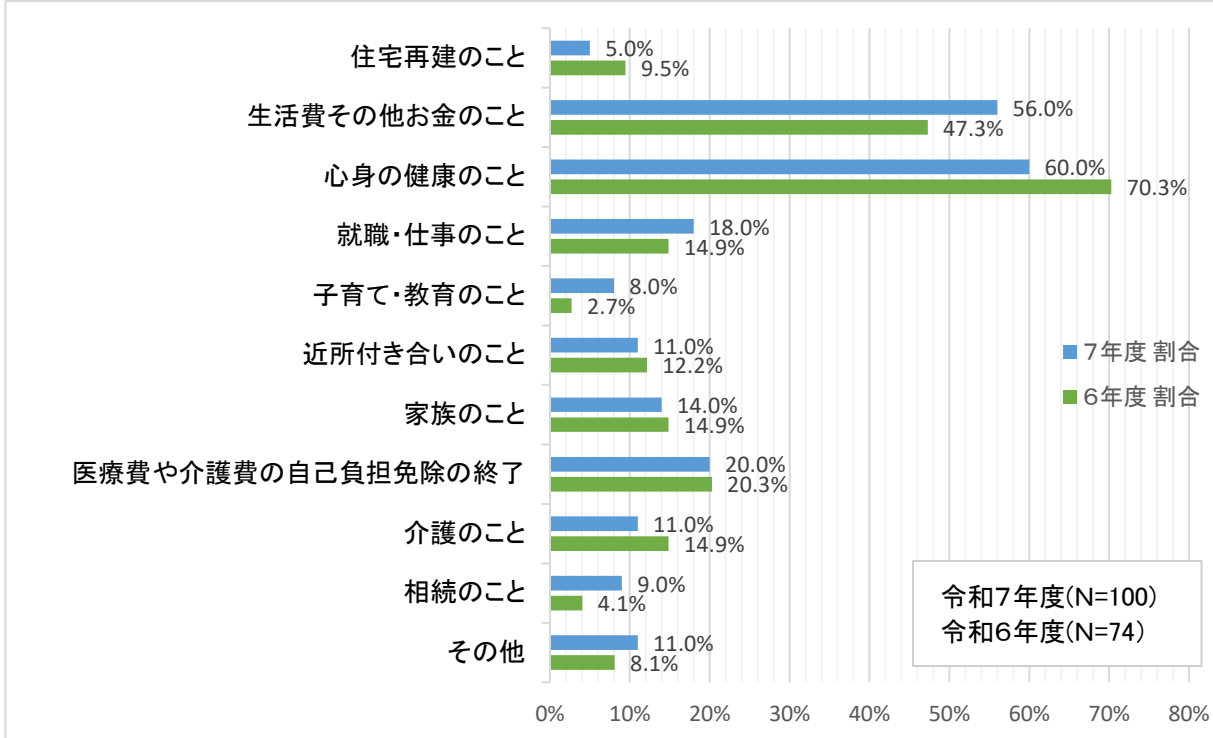
・マンション住まいは、近隣に誰が住んでいるのか分からず、空虚に感じる。

◆問3 あなたの暮らしの状況を教えてください。



〔問3で「やや困っている」「大変困っている」と回答した方にお伺いします。〕

問3-1 現在の困り事や心配事は何ですか。(複数回答)

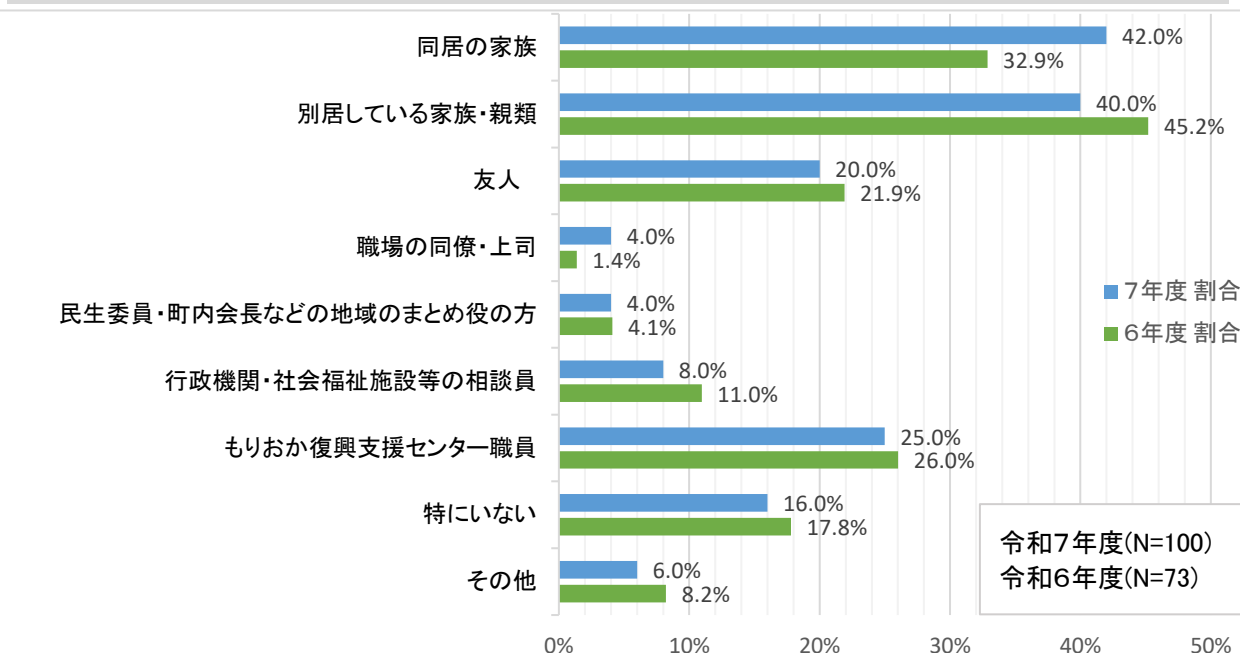


【その他欄記載内容】※趣旨を損なわない範囲で修正を加えている部分があります。

- ・家賃が高額で生活が困窮している。
- ・一人暮らしのため、何かあった際に不安がある。
- ・後期高齢者医療費の自己負担割合が2割から3割に引き上げられた。
- ・成人した子どもは、被災によるPTSDの影響で就労できない。
- ・先祖の墓の管理について課題がある。
- ・老後の生活における居住場所について困っている。
- ・相談できる機関が今年度で終了すること。

〔問3で「やや困っている」「大変困っている」と回答した方にお伺いします。〕

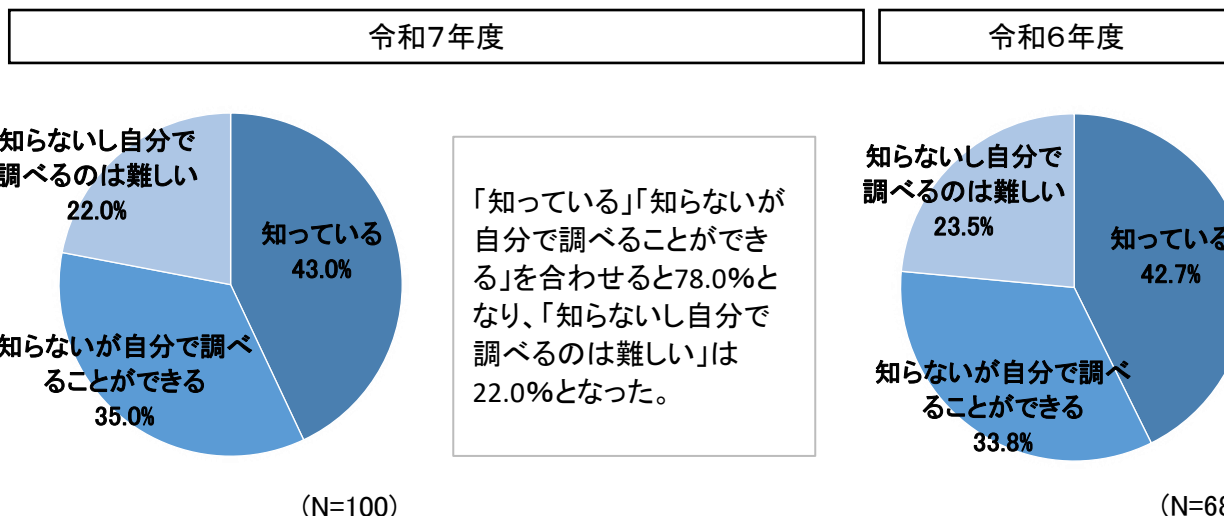
問3-2 生活上の困り事や心配事を相談する相手は誰ですか。(複数回答)



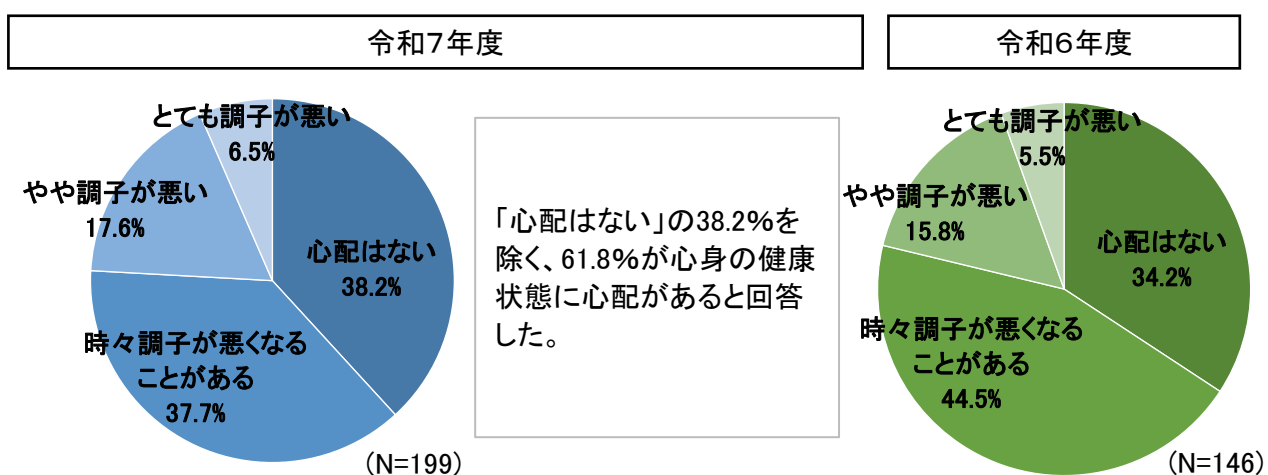
【その他欄記載内容】

- ・担当医
- ・いわて被災者支援センター
- ・弁護士

問3-3 生活上の困り事や心配事を相談できる公的機関を知っていますか。

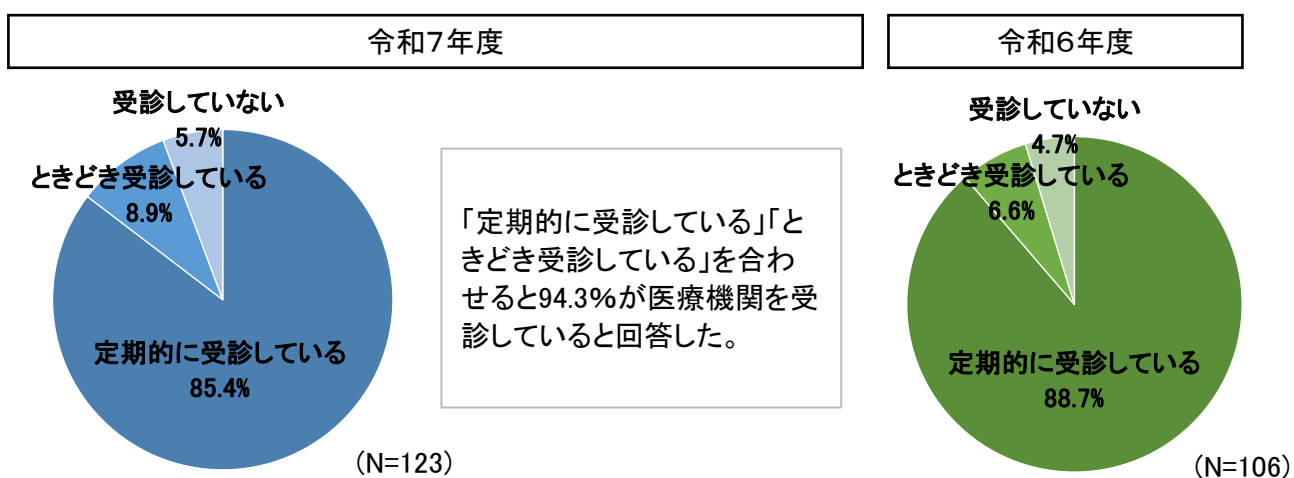


◆問4 あなたの心身の健康の状況を教えてください。

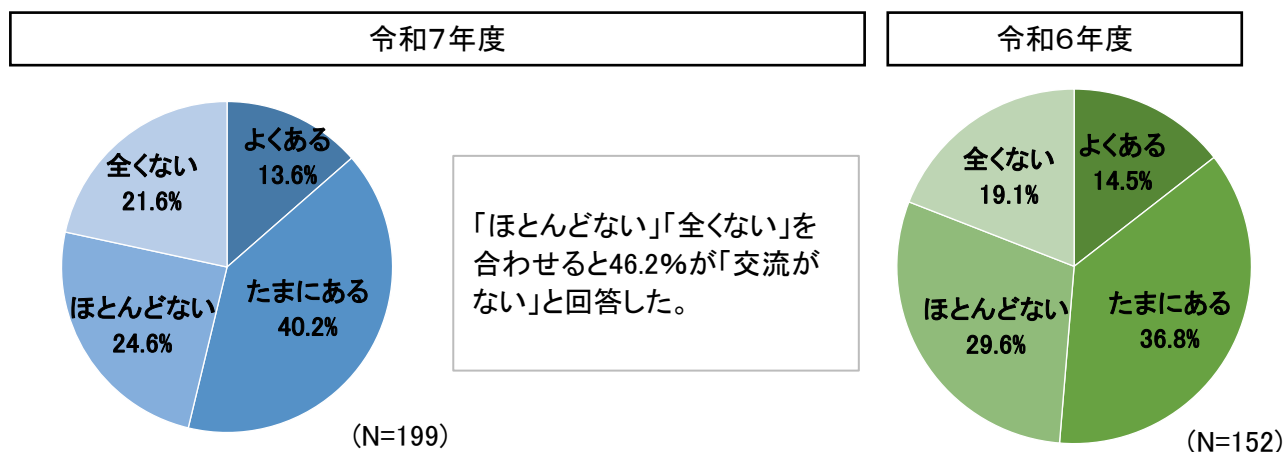


〔問4で「心配はない」以外の回答をした方にお伺いします。〕

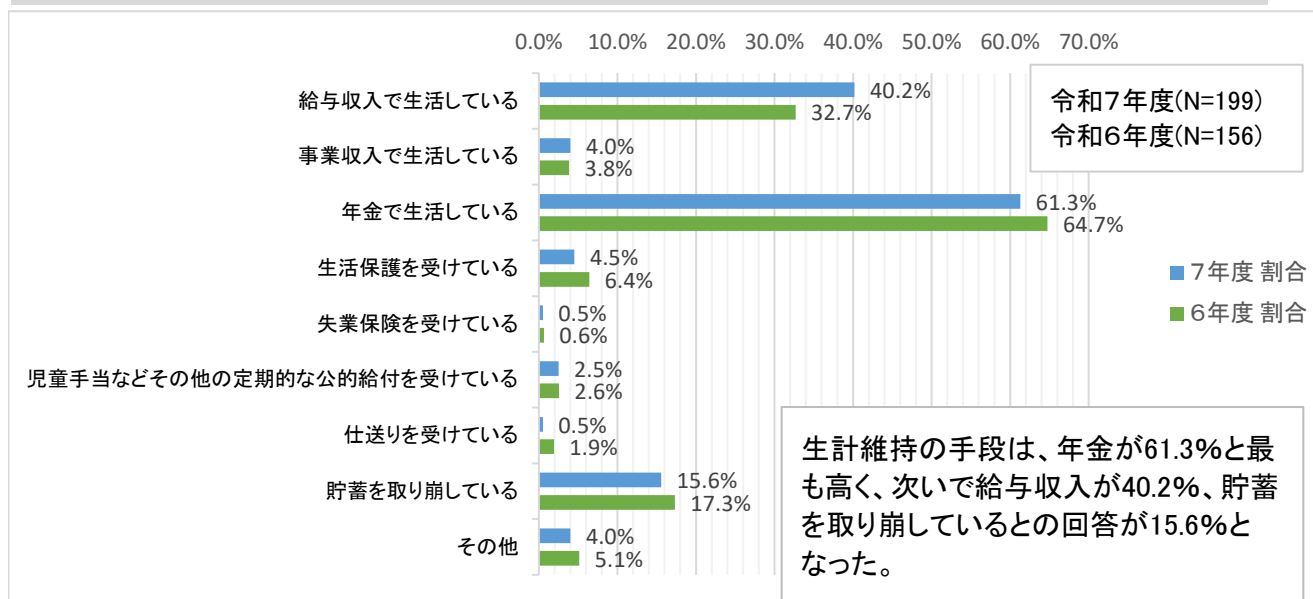
問4-1 現在、医療機関を受診していますか。



◆問5 近所の方と交流はありますか。



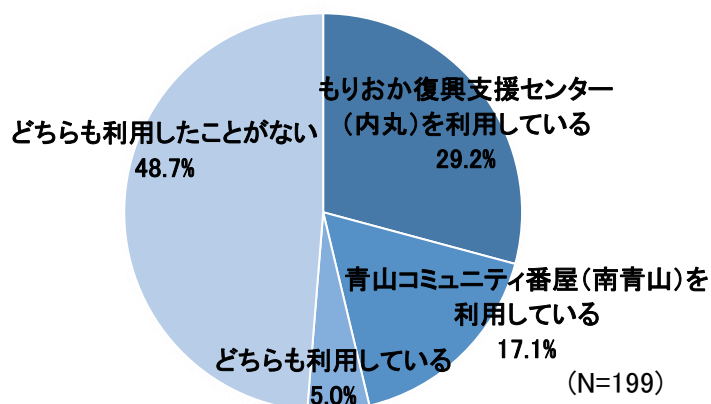
◆問6 あなたの世帯は、どのように生計を維持していますか。(複数回答)



【その他欄記載内容】

- ・同居家族が負担
- ・短時間のアルバイト

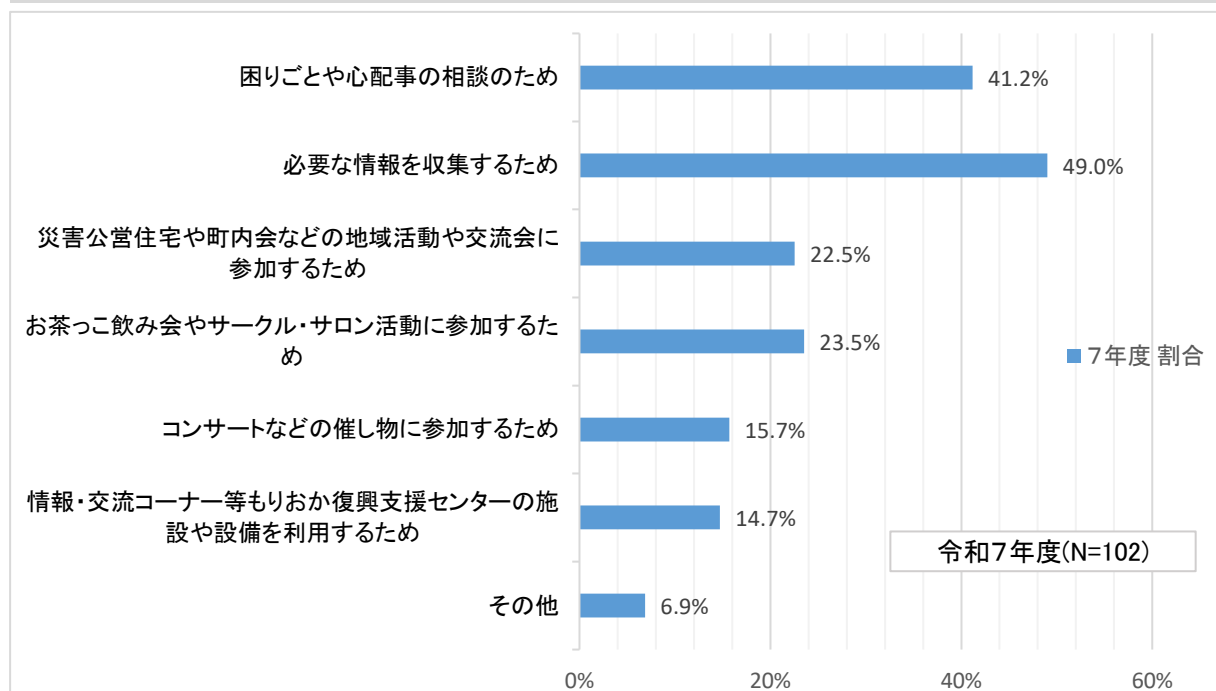
◆問7 あなたは、現在、もりおか復興支援センター(内丸)または青山コミュニティ番屋(南青山)を利用していますか。【令和7年度新規項目】



「もりおか復興支援センター(内丸)を利用している」「青山コミュニティ番屋(南青山)を利用している」「どちらも利用している」を合わせると51.3%となり、「どちらも利用したことがない」は48.7%となった。

〔問7で「どちらも利用したことがない」と回答した方以外にお伺いします。〕

問7-1 あなたは、もりおか復興支援センター及び青山コミュニティ番屋をどのように利用していますか。(複数回答)【令和7年新規項目】

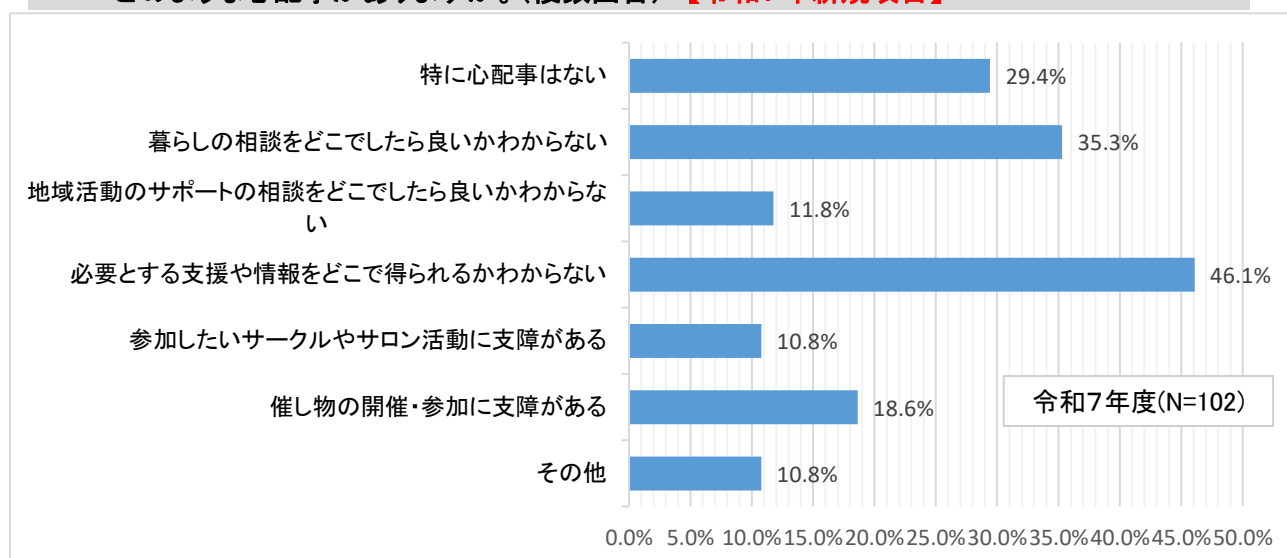


【その他欄記載内容】※趣旨を損なわない範囲で修正を加えている部分があります。

- ・被災した仲間とコミュニケーションを取り、大槌町の昔と今について語り合っている。
- ・定期的に電話をいただき、生活状況を確認してくださっている。
- ・ウォーキングやまち歩きなどの行事に参加し、展示場や展示会の見学を行っている。

〔問7で「どちらも利用したことがない」と回答した方以外にお伺いします。〕

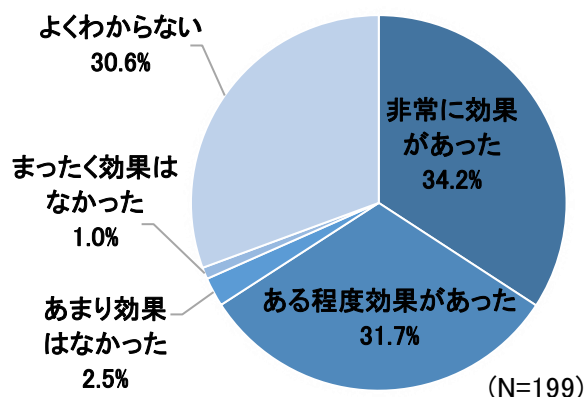
問7-2 今後、復興事業が終了し、もりおか復興支援センターが利用できなくなった場合、どのような心配事がありますか。(複数回答)【令和7年新規項目】



【その他欄記載内容】※趣旨を損なわない範囲で修正を加えている部分があります。

- ・心の拠り所を失うことは悲しい。
 - ・作品展のポスターを掲示してもらい、手ぬぐいなどのチラシを置いてもらっているが、その場所がなくなるため困っている。
 - ・毎年開催されていたバス旅行や映画会は、もう実施されないのだろうか。いつも楽しみにしていた。
 - ・センターで会いたい人に会える喜びは格別である。
- また、人を通じて普段話せない人と意外に話せたり、良い趣味や行事を紹介されたり、啓発を受けたりすることもある。これからは囲碁に挑戦し、バドミントンもやりたい。
- ・花壇の手入れやアパート内の困り事を相談できていたが、来年からはどこに相談すればよいのか。
 - ・間に入る人がいなくなると、個人同士の関係がギスギスすると思う。

問7-3 平成23年7月11日に開設された「もりおか復興支援センター（青山コミュニティ番屋 ※を含む）」では、沿岸被災地や他県から盛岡市に避難された方々に対し、生活再建に向けた支援活動を行ってきました。これまでの取組について、コミュニティ形成支援、生活再建支援、見守り支援などの面で、どの程度効果があったと感じますか？
※青山コミュニティ番屋は令和3年2月11日に開設【令和7年新規項目】



「非常に効果があった」「ある程度効果があった」を合わせると65.9%となり、「あまり効果がなかった」「まったく効果はなかった」は3.5%となった。

◆問8 現在の困り事や心配事などのほか、盛岡での生活や将来について、日頃考えていることがありましたら自由にご記入ください。

【主なもの】※趣旨を損なわない範囲で修正を加えている部分があります。

- ・物価高騰で生活費の負担が大きい。備蓄米の確保が難しい。
- ・持病があり、生活が困窮していくことが心配である。
- ・単身世帯かつ高齢者でもあるため、病気になった場合などを考えると、これからどう対処すべきか不安。
- ・震災の影響もあり、家族が精神的不安から通院している。
- ・パートの給料では物価上昇に追いつかない。以前の釜石の家と現在の盛岡の家のローンが重く負担になっている。
- ・精神障害のある家族や子供、孫など心配事はいくつかある。やはり故郷に帰りたいが、盛岡に自宅を再建した以上、ここに住むしかない。付き合いは、かつての仕事仲間のみで、近所との付き合いは全くない。
- ・体調があまり良くない。入院を勧められるのが怖く、なかなか病院に行けない。
- ・物価高騰により生活がしづらくなっている。
- ・現在のアパートは二階で、足腰に痛みがあり階段がきつい。できれば一階に住みたいと思っている。
- ・盛岡で生活を希望しているが、遠野市で一人暮らしをしている母の今後が心配である。
- ・年金は毎年少しずつ減額されているが、現在は光熱費、食料、医療費などの負担が増加している。車を運転しているが、ガソリン代や維持費も高額である。年金受給者は皆苦勞していると思う。なぜ年金から所得税や住民税を徴収するのか、国の政治は全く理解できない。私は10年間年金を受け取っているが、毎年減額され、税金も徴収され、大変な時世である。国会議員の報酬を減額してほしい。
- ・昨年、主人が亡くなり、1人になって人とのつながりの大切さを改めて実感している。被災した娘たちはそれぞれの生活があり、私を引き取る余裕がない。しばらくの間、こちらのお世話になりたいと思っている。
- ・県営アパートの家賃を下げてほしい。このままでは生活が困窮し、退去せざるを得なくなる。

・困り事は被災した義母についてである。被災直後から精神状態が不安定で、ここ数年で認知症状も出始め、家族に対する攻撃的な言動に大変苦慮している。家族の休息を確保するため、デイサービスの利用日を増やしたり、ショートステイを利用したり、合う薬を試したりしながら対策しているが、施設利用を増やした結果、母の年金だけでは賄えなくなってきた。医療費や利用料の免除が打ち切られてからは、物価高騰の影響も重なり、少ない預金が減り続けることに不安を感じている。自分も定年が近く、間もなく年金暮らしになることを考えると、80歳まで家のローンを抱えながら、親の介護と自分たちの老後に不安しかない。

・経済的なこと、精神的な病気のこと、現在、B型就労に通っているが、将来的に一般就労に就けるのか不安である。

・今後のことについて、どこに相談し、どうすればよいのか分からない。

・後期高齢者医療費が、夫は昨年2割だったが今年は3割になった。妻は昨年3割で、今年も同じく3割である。役所に電話で確認したところ、「妻の年金が多いから」との返答だった。日頃から負担が増えているため、年金が少ない分での計算どおり、2割にしてほしい。

・今の物価高がどこまで続くのか不安である。

・元住んでいた沿岸の人たちとの交流が疎遠になりつつある。国道106号は時間的に早く行けるようになったが、高速道路の最低速度があり、年齢的にもついていけなくなったため、疎遠は仕方がないと感じている。現在は避難先の盛岡でコミュニティをつくるしかないと考え、自治会に参加したり、もりおか復興支援センターを利用している。

・センター終了に伴い、町内会、公民館、包括センターなどの行事に参加している（道路清掃、植木の剪定、講座への参加など）。しかし、センター終了後の相談窓口が分からないので教えてほしい。

・人生の終末を見据え、永代供養のタイミングや墓地（新庄墓園）を寺へ移すこと、現在の住居の扱い（可能なら社会福祉に活用）、工房創での手拭い販売や染色・作品展の継続、大槌にある山林や畑の処分について検討している。

・高齢化に伴い、清掃活動や雪かきなどの負担が一部の住民に集中している。

・祖母に認知症（MCI）の診断が下りた。今後の進行にもよるが、介護しながら仕事を続けられるのか不安である。自分に何かあった場合（一人親なので）、子供と祖母はどうなってしまうのか心配である。

・子どもが仕事に就けず、自立できないのではと不安。

・病気療養中であり、快方に向かうことを願っている。

・仕事に追われ、コミュニティを利用する余裕がなかった。

・地元で暮らす叔父や叔母が高齢になり、心配である。

・14年前に現在のマンションへ移り住んだが、同じマンションに住み続けているにもかかわらず、住民との交流はほとんどなく、虚しさを感じている。過日、隣室の世帯主が逝去されたことを風の便りで知ったが、それは2か月も前の出来事だったとのことだ。幸い、2～3世帯とは親しくしているものの、交流は限定的である。

・駐輪場に放置された自転車のせいでバイクを止められない。使わない自転車は廃棄してほしい。

・食事や健康（体と頭）に気を配り、できれば今住んでいるマンションで人生の終わりを迎えたいと思っているが、支援体制の確保は難しいのだろうか。

・老後、相続、子育てについて考えなければならないことは多いが、どこにどのように相談すればよいのか悩んでいる。

・盛岡と大槌の格差が拡大している。

・来春3月に番屋が閉鎖されると聞いたが、とても残念である。

・第一は、医療費が4年前に打ち切られたことである。震災当時、地震保険にも加入しておらず、家のローンを終えてからまだ3年しか経っていなかった。住んでいた場所は危険区域であり、家を建てることもできなかった。年金は繰り上げ受給で60歳からもらっている。現在住んでいるアパートでは家賃や公共料金をすべて支払っているが、年金額は少なく、病気ばかり増えて大変である。この先のことを考えると不安だらけである。

・健康に注意しながら生活している。近くに子供たちがいるので、困った時は連絡し合っている。楽しみながら生活できるよう、友人とも交流を続けている。

・独り暮らしへの不安、体調の心配、老化の問題がある。どこに相談すればよいのか分からず、老人ホームなどの情報が欲しい。

・困り事があるときは、まず支援センターに相談する。内容に応じて専門家を紹介してもらう。さらに、災害が頻発している昨今、15年で区切りをつけて縮小や閉鎖をするべきではないと考える。

・土日はバスが運行しないため、近々免許を返納すると不便になり、不安である。

・熊の出没に不安を感じている。

・医療費援助が今年度で終了予定であり、将来の生活に不安を感じている。

・身近な親族が盛岡市を離れたり、地元で暮らしているため、日々の生活の支援を受けられず、孤立している状態である。最近は孤独死もあり得ると思うことがある。

・最近の物価高はやはり苦しいものである。

・医者選びに困っている。

・地域との関わりが少ない。

・将来に不安がある。医療費の免除もなくなるとのことで心配である。

・高齢に伴い、日々の生活に不安を感じることもある。今月限りで車のない生活となるが、これからも今までと同じように楽しい日々になりたい。現在はバスを利用し、自分にできることとして外の空気を楽しむため努力している。

・新築したいが、物価が上がり思うように進まない。相続しなければならぬ土地がわずかにあるが、売却して分ける必要があり、良い買収者(不動産業者)が見つからず困っている。子供(成人しているが)や孫がしっかりするまで、まだ心配である。

・高齢になってきており、いつまで働き続けることができるのか不安がある。経済的にも心配である。

・特に問題はないが、お墓が盛岡にあり、現在は免許を返納したため、今後は行くことが難しくなると思う。その際、どのようにすればよいのかと考えている。

・一人暮らしであり、車もなく、急病の際に自分で病院へ行けなくなったとき困るだろう。年金だけの収入で切り詰めた生活をしており、部屋の中は必要最低限で一間のがらんとした部屋である。心細く泣く夜もある。

・世間一般的に災害が多く、東日本大震災のみ支援を続けてもらえる状況はだんだん少なくなっており、地域の人々の感想も厳しいものではないように思える。様々な支援があるが、発災から15年が経過した中で、行政からの支援ばかりを期待するのはいかがなものか。また、一般的に高齢化も進み、社会全体の悩み事になっているのではないかと。被災した人だけの問題ではないということである。十分に目を配り、支援センターにも対応していただいたと感じている。ありがとうございました。

・災害復旧資金を借りたため、年金で年間50万円ずつ支払うのが大変だった。ようやく今年で支払いが終わるので、これからはいくらか良くなると思う。

・年齢とともに通院は多くなる。持病のための定期検査や治療も回数が増えている。反面、医療費は2割から3割負担となり、金額が高くなってきた。高齢者負担は当然と思いつつも、現実的には厳しい。年金をもらえるだけでもありがたいと思うが、最近の物価高で生活費そのものが上がり、このままでは将来生活できるか心配である。

・仕事を続けたいが、身体のこともあり心配である。住宅を借りているが老朽化しており、何より防犯面で不安がある。盛岡に住み続けるか、県外に移るか迷っている。

・70代でありながらアルバイトをして、少しでも生活費に充てている。孫も高校生になり、ますます出費が多くなっている。まだ仕事を続けなければならず、今後に不安を感じている。

・福島市と比べると、子の医療費や学費、その他交通費など、生活費に関わる金額が高い印象である。

・家賃をはじめ、さまざまなものが高騰し、給料の収入だけで生活するのがやっとという状況である。できる仕事をと働き働いているが、働けなくなったらと思うと不安である。

・盛岡は利便性がよいが、将来は住み慣れた地元で暮らしたいと思っている。

・復興支援センターがなくなると、今までさまざまな相談ができていたのが難しくなり、困る。人と人との間に入り、できるだけギスギスしないようにしてくれていたのが、なくなるとどうなるか不安である。物価は高くなるばかりで、暮らしていけるかどうか心配である。

・さまざまな生活の相談事について、沿岸とは異なる内陸部での生活やしきたりなどを身近に相談できる番屋がなくなるのはとても不安である。仕事で平日は動きが取れない日常生活の中でも、土曜日に番屋に行ったり電話をしたりできて、とても助かっていたので、今後が不安である。

・被災後、北上に住む次男を頼り来県し、現在の夫と知り合って盛岡での生活を始めた。それから12年間、ずっと支援センターに世話になっていた。ありがとう。神戸の支援センターは続いているのに、盛岡の支援センターがなくなるのは納得できない気持ちである。

◆問9 今後、必要な支援等、市への要望がありましたら御記入ください。

【主なもの】※趣旨を損なわない範囲で修正を加えている部分があります。

・今後も継続して被災者を支えてほしい。

・子供たちの大学や高校の費用負担の対象を広げてほしい。働いているが、対象外で負担が大きい。

・現在アパートで暮らしているが、将来災害住宅に入居することは可能なのか知りたい。そうした問い合わせができる窓口があれば教えてほしい。盛岡復興支援センターがなくなった後も、様々な問い合わせができる窓口を設けてほしい。

・要望は、医療費や介護費の自己負担免除を再開してほしい。

・県営アパートの家賃を下げてほしい。

・打ち切られた医療費の補助を復活させてほしい。

・盛岡復興支援センターをなくさないでほしい。

・前住居の市の情報を定期的に知りたい。

・病院に通うことが増え、2割と3割では支払額に大きな差がある。物価高騰で生活の負担も増している。今後は本人の年金額で計算し、2割負担にしてほしい。

・今後のアパートの自治会やその他の運営への支援をお願いしたい。

・昨年病気になり、医療助成などで市の医療助成課や障がい福祉課に世話になっている。対応が早く、わかりやすく、親切で助かっている。

・少子高齢化時代において、それぞれができることで自立した生活ができるよう導く必要がある。支援センターで、行政に必要な最低限のスマホの使い方を教えてほしい。物価高で生活が苦しい。低所得世帯への支援を強く望む。盛岡支援センターよりも、被災者への支援としてお盆と正月の給付を望む。

・子が支援学校に在学している。登校時のバス運行はとてありがたく、安心している。しかし、実習期間になると運行がなくなり、保護者送迎となる。住宅再建のローン返済もあり、仕事を続けなければならない。実習期間中も通常どおりバスを運行してほしい。仕事に支障が出て働けず困っている。

・長きにわたり震災で被災した方々に寄り添い、ご支援いただきありがとうございます。引き続き高齢の方への寄り添いを願います。

・我が家のような年金生活者には、些細な支援でも必要である。夫婦とも定期的に病院に通っており、医療費が生活を圧迫している。さらに、酷暑や極寒の当地では光熱費が高額で、生活費全体に占める割合が大きすぎる。これらの支援策はないのでしょうか。

・見守りは必要だと思う。

・今後、年を重ねるにつれて生じる上記の問題(空き家や医療など)について、支援していただけると助かる。

・盛岡で生活している人には特に問題はないと思う。大槌の人への支援は続けてほしい。

・何か起こった時にはすぐ番屋に行けるので、とても心強く安心している。他の人には話せないことでも相談できる。

・支援は継続してほしい。郷里を離れて14年余、主人に先立たれて10年、負の遺産を三男と返済してきて10年になる。支援センターの方には弁護士やその他の専門家を紹介していただいたり、同行していただいたりし、完済とはいかないがほとんど返済できた。近隣に青山コミュニティ番屋ができてからはイベントにも参加している。独りの生活であり、大変助けられている。夏の冷房設備を息子から送ってもらっても設置できず、助けてもらいながら使用している。時には中古の扇風機やストーブなども使用させていただいている。

・年齢的にパソコンやスマホの操作がなかなかできず、必要な情報収集や書類の提出などに困っている。アドバイスしてくれる方が常駐してもらえれば願っている。

・センターのように定期的に集まれる場所の提供を継続してほしい。

・自然災害は避けられないが、被害を最小限に抑える対策をお願いする。

・家賃への補助は今からでも検討してほしい。切実である。毎年、毎回要望していると思う。どのように検討されたのか、公開されているなら知りたい。

・引き続き医療費免除や補助金を継続してほしい。

・情報機器に弱く、車で外出もできないため習得場所に行けない。市中心部に高齢者向けのパソコンやスマホの習得場所があるとよい。日常生活で周囲についていけない。

・市役所が新しくなるそうなので庁舎内にATMと郵便局があれば良いと思う。

・国の物価高対策とは別に、市独自で市民一律の給付金をお願いする。

・自営業をしているので、助成金などの情報があれば教えてほしい。

・定期的な金銭的援助があると被災者の助けになる。

・これまで良い情報や場所の提供、訪問などに心より感謝している。親しい方々とは今後も絆がより強まり、近隣の方々や震災前の町の方々とも、私たち、そして子供や孫とのつながりは続いていくと思う。それも盛岡市という安全・安心な場所に住んでいるからである。皆が集える場所として、情報が得られ、相談も可能な施設と相談員の継続を強く望む。

・経済的な相談や支援が手厚ければ助かる。

・以前、大病を患い二度手術を受けた。医療費の支援があったため助かり、生き延びることができた。今後は高額医療を利用しても支払えるかどうか分からない。以前、119番に電話した際、途中から住所が言えなくなり、電話も思うようにできず、救急車が到着できずに約1時間動けなかった。

・バスを含むライフラインのコスト支援を望む。

・支援センターの方々にはよくしていただいた。今後も継続していただくことはできないのだろうか。

・これまで物資をはじめ、さまざまな面で手厚く支援していただき感謝している。今後は自立して頑張らねばと、皆それぞれ思っていることと思う。復興支援センターが閉鎖されるのは寂しいが、どこかに心のよりどころがあれば良いと少し思っている。

・メリットがある方には良いと思う。全被災者に支援できるシステムであってほしい。

・2011年当初から手厚い支援をいただき、心から感謝している。個人的には2～3年後からお世話になったが、当初の様子を聞くたびに盛岡市支援センターの方々に救われた思いで、感謝の気持ちでいっぱい。10年を過ぎ、生活も落ち着き自立しなければと思う。それでも何かと情報や催し物の案内など、感謝している。本当にありがとうございました。回数は少なくともよいので、今後も盛岡まち歩きなどを開講していただければうれしい。また、私たちに関連する情報の提供を望む。

・できればアンケート要望の実現をお願いしたい。災害公営住宅がどこにあるかは知らないが、仕事や交通の便、病院、買い物が不便にならないよう配慮を望む。

・今後も生活費への不安を感じている。何らかの支援金があると助かる。

・福島に居住していた頃より経済的不安が大きい。支援をいただけるとありがたい。

・復興支援センターがなくなるのは困る。それに代わる支援団体を検討してほしい。

・番屋を残すことはどうしてもできないのだろうか。気軽に生活相談ができるのは、そうした機関ならではのあり、身近にそのような場所があることは心強い。盛岡に住み始め、近所付き合いのあった場所から南青山に引っ越してきたが、とても不安である。